

カルテの余白

五省会のドクターを紹介します



西能病院麻酔科医長

のほら あけみ
野原 明美 (42歳)

得意分野	麻酔
趣味	テニス スキー
好物	焼きプリン

野外救急法

毎年ゴールデンウィークは雪の上で過ごしています。

山の上では、下界で起こらないようなことが起こります。自分自身まったく自覚のないまま低体温症になりかけたり、遭難しそうな人を助けたこともあります。自分の身を守るためにも、野外での救急法を学んだほうが良いと考え、二年前、野外救急法のコースを受講しました。

山奥の廃校になった小学校で、三泊四日の合宿生活。午前中講義を受け、午後は山の中です。テキストを見るかぎり、JPTEC（日本救急医学会公認の病院前外傷教育プログラム）と似ており、医療従事者には余裕の内容。しかし、状況が普通ではありません。日没が迫っているとか、土砂降りの雨の中とか、過酷な状況下でシナリオトレーニングを繰り返します。刻々と変化する自然環境、どう考え何故その選択をするのか？、常に自分の頭で考えることを要求されます。また、モニターもなく検査もできない状況下、傷病者の訴えを聞き、身体所見をとり、病態の変化を見逃さず悪化しないよう配慮するなど、患者への対応の幅も広がりました。

そして今年の室堂（立山）、学生とおぼしき集団が1人の要救助者を騎馬戦状態で搬送していくのに出くわしました。野外救急法を学んだ私は、へ声かけたほうが良いかな？と思うものの、へ大丈夫ですよ。意識あるし」という友人（脳外科医）の一言に妙に納得してしまい、へbestな方法は、○○して△△と心の中で考え、ご無事を祈りながら登山を続けたのでした。



鍋岳を背景にハイクアップ(2013年5月5日)

右が野原医師